



企画展示のご案内

令和5年7月1日～令和6年6月29日まで、「議会政治の軌跡」と題して、帝国議会開設後から政党政治の終焉までの経過を4期に分けて、展示しています。

「議会政治の軌跡－（2期）隈板内閣 瓦解から大正政変まで－」

令和5年10月1日（日）から
12月27日（水）まで

隈板内閣瓦解から大正政変に至るまでの時代の様子に関係資料で紹介しています。桂太郎と西園寺公望の肖像画、呷堂十二景「桂内閣弾劾」のほか、日露戦争、明治天皇崩御の号外などを展示しています。

展示期間終了が近づいておりますので、是非、お越しください。



呷堂十二景「桂内閣弾劾」山尾平画

「議会政治の軌跡－（3期）デモクラ シーの行方－」

令和6年1月5日（金）から
3月30日（土）まで

来る1月5日からは、大正政変後から第二次山本権兵衛内閣瓦解に至る時代の動きに関係資料で紹介いたします。わが国初の本格的政党内閣を率いた原敬の肖像画、高まる普通選挙権獲得運動の様子を描いた呷堂十二景の一つ「普選演説」などを展示する予定です。また今回もフォーカス展示として、当時活躍した人物、出来事などに焦点を当て、月替わりで紹介いたします。



「原敬肖像画」上野広一画

展示室紹介（その6）～憲政プラザ⑤～ 議員登院表示盤

前号でお伝えした衆議院の親時計の隣に、議員登院表示盤（以下「表示盤」という。）が展示されています。



展示されている議員登院表示盤

現議事堂には、中央玄関とは別に議員が登院、退出するため通常利用する玄関が衆議院と参議院それぞれに設けられていますが、表示盤は議事堂完成当初から衆議院の玄関に設置されていました。玄関の左側に黒の議員名札がずらりと並び、登院すると、自分の名札を赤字（未登院）から白字（登院）に議員自身でかえすことになっていました¹。

表示盤は、1962年（昭和37）に木札を回転させる方式に変更され、1988年（昭和63）に電光式²に切り替えられるまで、正玄関をはじめ議事堂本館と分館の入口計4か所³にそれぞれ設置されていました。当館に展示しているものは、正玄関での役目を終えて、1988年（昭和63）4月1

日に同所から搬出されたものです。

木札回転式の表示盤は、自分の名が記された木札を議員が押して「赤地」を「黒地」にかえすことで登院したことを示すもので、木札は三角柱の形をしています。各入口に設けられた表示盤を衛視⁴が確認し、正玄関の表示盤で全員の登院状況がわかる仕組みとなっていました。



木札回転式

この木札回転式表示盤を製作したのは、明治に創業された江戸漆器の製造業者で、戦後の第2回国会以降、議場や委員室の氏名標⁵をはじめ本会議における記名投票用の木札（白票、青票）などを手掛けていました。

表示盤は、^{かんた}鉋仕上げを施した檜の木札に塗師が黒又は赤の漆を塗り、その上に書道家が議員の氏名を書いており、議員

¹ 第29回国会衆議院公報第8号（昭和33年6月10日）29頁

² 2019年（平成31）からタッチパネル式が導入されている。

³ 1953年（昭和28）から1965年（昭和40）までの間は5か所に設置

⁴ 衆議院事務局警務部の職員。議院の規律を保持するため議院警察権を持つ。

⁵ 議場の各議席の机に取り付けられている議員氏名が書かれている黒い四角柱。議員は着席するところの氏名標を立てる。

氏名のみならず、会派名用、議員氏名五十音順の見出し文字用、そして数枚の予備の各木札で一つの表示盤が構成されています。

現役の塗師である中村明正氏⁶は、「この表示盤は、黒2面、赤1面の計3面を、中塗り⁷と上塗りの2回ずつ、計6回塗っていく。平らにして漆を塗って乾かしてまた塗っての繰り返しで、木札を持つ左手の指が痛みを通り越して固まってしまうほど。納品までは時間との勝負で、そのほとんどの時間を漆の乾きに費やす。寝る間もなくただひたすら同じ作業を繰り返していた。表示盤が5か所に置かれている時もあり、合計すると2,500～2,600枚の木札を衆議院解散のたびに塗り直していた。予備がないため、解散後の最初に取り掛かる作業がこの表示盤であった。」「一番大変だったことは、利用していく中で不具合が生じた際の調整。木札を回転させるために取り付けている金物や表示盤自体の歪み、個体の使用頻度（回転数）、玄関という場の環境が原因となるが、不具合が生じると議事課⁸から連絡が入り、通常の仕事が終わった後に衆議院の玄関まで赴き、議員がいなくなるだいたい17時以降からその場で作業をする。一つ一つの状態を確認して、塗が剥がれていれば塗り直し、スムーズに回転するよう調整していく。議事課の職

員や衛視が見守る中、静寂な場所での作業は、緊張の連続だった。」と当時を振り返ってお話ししてくださいました。



中村氏の手（工房にて）

また、筆耕として携わっておられた書道家の伊藤碧山氏⁹にこの表示盤の画像をお見せしたところ、以下のお話を伺いました。「この表示盤は私が書いたもの。よく残っていたなあ、懐かしい。」「筆は面相筆¹⁰を根本までおろして白エナメル塗料（以下「白エナメル」という。）を含ませ、余分な塗料を落としてから漆の上に白エナメルを乗せていく。早いと擦れてしまうから運筆はゆっくりと一定速度を保つ。黒地面に議員全員の氏名を書き終えて乾燥させた後、赤地面を書いて一つの木札が完成する。白エナメルの濃度、その日の気温や湿度、自分の体調によって出来栄えが違ってくるが、先に書いた氏名と同じ文字になるよう苦心した。調子が悪いと何度も間違えてしまって、その場合にはシンナーで白エナメルの文字を消す作業が入る。乾くまでの時間が必要になるため、能率が悪くなってし

⁶ 1939年（昭和14）5月11日生まれの84歳。18歳で就職し、爾来66年、塗師として活躍中。

⁷ 上塗りの漆をむらなく仕上げるため、本来は黒又は赤漆で中塗りを行うが、表示盤に限って時間短縮を目的に中塗りに柿渋を使っている。特に赤漆は中塗りをしないとシミや色むらが起こりやすい。

⁸ 衆議院事務局議事部議事課

⁹ 1947年（昭和22）10月12日生まれの76歳。5歳から書道をはじめ、師匠の丸山芳聲（ほうせい）氏に続き、1971年（昭和46）から2019年（令和元）の参議院議員通常選挙まで、筆耕作業に携わる。

¹⁰ 書道や水彩画などを書く際に用いられる細筆。5mmの太さの筆で約15mmの大きさの文字を書いていく。

まった。表示盤は、選挙ごとに全て書き直していた。投開票日の翌日から議員氏名を書き始めるが、1週間程作業があれ



伊藤碧山氏（主宰している書道教室にて）

ばそのうちの丸2～3日は完徹だった。衆参同日選挙の時は、時間との闘いで、書いても書いても終わらなかった。」

衆議院解散から国会が召集されるまでの間に完成させなければならなかったこの表示盤は、熟練された職人が織りなす匠の技が結集された、日本の伝統工芸作品の一つと言っても過言ではないでしょう。

マレーシア下院議会委員会一行訪問報告

9月及び10月にマレーシア下院議会よりインフラ・交通・通信特別委員会一行及び国内取引・物価農業特別委員会一行が憲政記念館を訪問されました。

日本の憲政史や国会の制度等を説明した後、衆議院の三つの採決方法を体験していただきました。

そのうちの記名投票は、総予算や重要議案に用いられる方法で、議員は各議席に備え付けの議員氏名が書かれた木札の名刺をもって点呼に応じ投票します。木札は白票が賛成、青票が反対を表します。右上の写真にあるように、委員会一行も白票を手にとられ、この後、演壇まで進んで投票されました。

憲政記念館の議場体験コーナー内の議席には、本会議で使用される木札（白票、青票）があり、どなたでも手に取っていただけますので、来館された際は是非、触れてみてください。



インフラ・交通・通信特別委員会一行



国内取引・物価農業特別委員会一行

【発行人】 菊田 幸夫
【編集責任者】 青山 卯女

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-8-1
TEL：03-3581-1651



本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。